

被爆者の声にこたえて! 「雪まつり」の札幌で…

「被爆者の方たちが、自分たちの辛い体験、被ばくの苦しみから、命からがら生き延びて、その後も就職や、結婚や、子どもたちのことや、本当にたくさんの問題を抱えて苦労しながら、でも、世界中のどの国の人にも、この同じ苦しみを味わせてはならないと被爆体験を語り続けてきて、核のタブーを確立しました」「そのことに対して、ノルウェーのノーベル平和委員会が被団協への平和賞授与を決定しました。しかし皆さん、私たちの国、日本政府はこの核兵器禁止条約に参加することも、3月3日から開かれる締約国会議にオブザーバー参加することすら表明していません」「ルウエーは北大西洋条約機構、NATOの創立時からの加盟国です。アメリカの核の傘の下にあるの国ですけれどもその国も、第3回定約国会議にオブザーバー参加します。どうして世界で唯一の戦争被爆国の日本政府が核兵器禁止条約に参加しないのでしょうか」



「雪まつり」会場に近いパルコ前で、北海道原水協の嶋田千津子事務局長、道労連の三上友衛議長、自由法曹団の渡辺達生弁護士、憲法共同センター小室正範事務局長らが、次々とマイクを握り訴えた日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める署名。その場で掲げられた広島基町高校の高校生が描いた「原爆の絵」(写真)にも海外からの観光客の注目があつまり、たくさんの署名、アンケートがよせられました。



明日8日は「いのちとくらし」集会 9日は全国で「9の日」アクションが

札幌では明日8日、「大軍拡でなく暮らしへ予算を！」と求める「いのちとくらし」集会(13:30、札幌駅そばの共済ホール)、9日には全国で「9の日」行動がよびかけられます。「核禁条約への日本政府の参加」「軍拡・増税NO!」の署名を呼びかけます。『We call on the government of Japan and all country's Governments to sign a treaty to ban and eliminate nuclear weapons』と一緒に!

戦後・被爆80年 核なき世界へ! 大軍拡NO! 戦争準備でなく平和の準備を!